島根県水産試験場　漁海況情報　平成 16 年 3 月 29 日発行

トビウオ通信　(3 月号)

http://www2.pref.shimane.jp/suisi/　（TEL 0855-22-1720）

《平成 15 年島根県漁業の動向》

今月は漁獲管理情報処理システム（ＴＡＣシステム）により集計した県下主要 13 漁協の漁獲統計資料（属人）から、最近 5 年間の島根県漁業の動向を取りまとめました。漁業種類にもよりますが、島根県の属人統計（農林統計）の約 85%が集計対象となっています。

1　魚種別漁獲量と生産金額

図 1、2 に平成 10 年から 15 年の魚種別の漁獲動向を示しました。漁獲量は平成 10 年から平成 13 年にかけて減少していましたが、平成 14 年以降増加傾向にあり、平成 15 年は 9 万 6 千トンの漁獲量となっています。生産金額は平成 11 年以降減少し、平成 15 年は約 166 億円となっています。魚種別に見ると、漁獲割合の高いマアジの漁獲量は、平成 11 年以降、横ばい状況にありますが、平成 13 年に大幅に減少したカタクチイワシのほか、ブリが増加しています。また、漁獲量ではあまり大きな割合を占めないもののスルメイカ、ケンサキイカ、ムシガレイは生産金額では比較的大きな割合となっています。

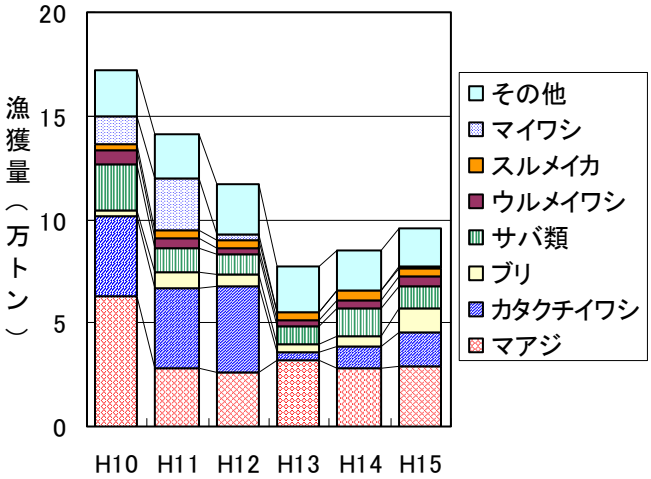


図１　魚種別漁獲量の推移

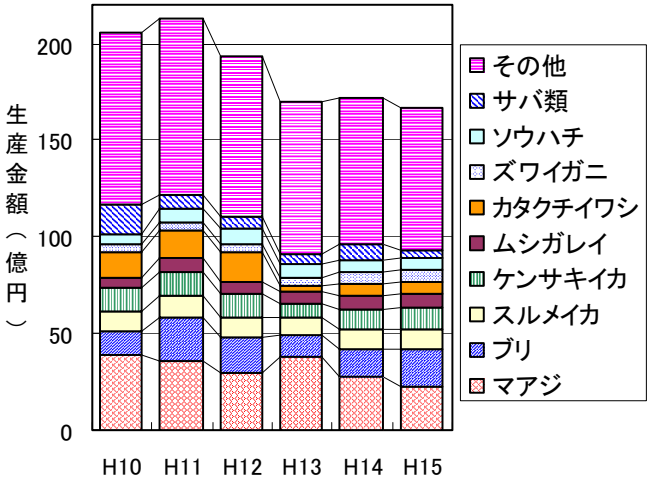


図２　魚種別生産金額の推移

2　沖合底びき網漁業の動向

図 3 に沖合底びき網漁業（2 そうびき）の魚種別漁獲量の動向を示しました。総漁獲量は平成 11 年以降僅かずつですが上昇傾向にありましたが、平成 15 年は前年を下回りました。カレイ類ではムシガレイが平成 14 年にかけ増加傾向にありましたが、平成 15 年は前年を下回りました。アカガレイは前年並みでしたが、ヤナギムシガレイ、ソウハチは前年を下回りました。スルメイカ、ケンサキイカなどのイカ類は

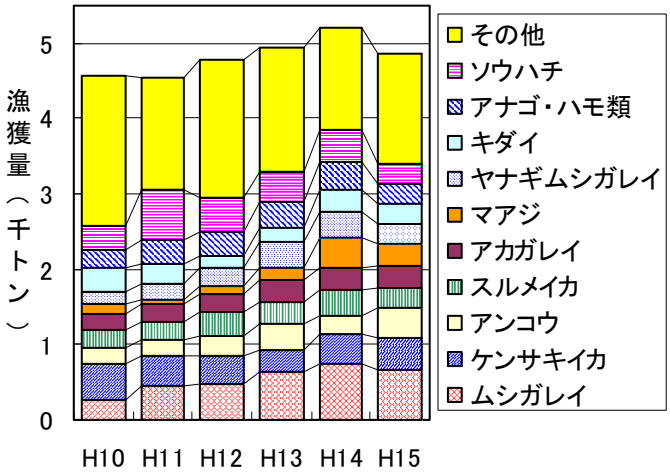


図３　沖合底びき網の魚種別漁獲量

比較的安定して漁獲されています。その他ではアンコウが増加傾向にあり、前年の約 1.5 倍の漁獲量となっています。生産金額は約 22 億円～26 億円で推移しています。

3　小型底びき網漁業の動向

図 4 に小型底びき網漁業（かけまわし）の魚種別漁獲量の動向を示しました。平成 13 年はソウハチの漁獲量が半減したこともあり総漁獲量は大きく減少しましたが、平成 14 年以降は増加傾向にあります。主要魚種ではニギス、ケンサキイカが増加し、前年の約 1.5 倍の漁獲量となっています。カレイ類ではソウハチが前年を下回り、ムシガレイは前年並の漁獲量となっています。その他ではイボダイが急増し、前年の約 2.3 倍の漁獲量となっています。生産金額は約 20 億円で前年を下回りました。

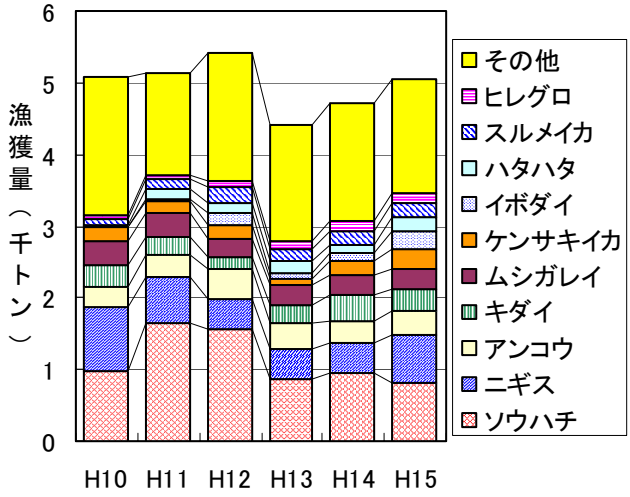


図４　小型底びき網の魚種別漁獲量

4　中型まき網漁業の動向

図5に中型まき網漁業の魚種別漁獲量の動向を示しました。平成 10 年以降、総漁獲量は減少を続けていましたが、平成 14 年以降増加の傾向にあります。主要魚種ではマアジが平成 11 年以降ほぼ横ばい状況にありますが、カタクチイワシやブリは増加傾向にあり、カタクチイワシは前年の約 1.6 倍、ブリは約 2.6 倍の漁獲量となっています。サバ類は前年を下回りました。生産金額は毎年減少しており、平成 15 年は約 45 億円となっています。

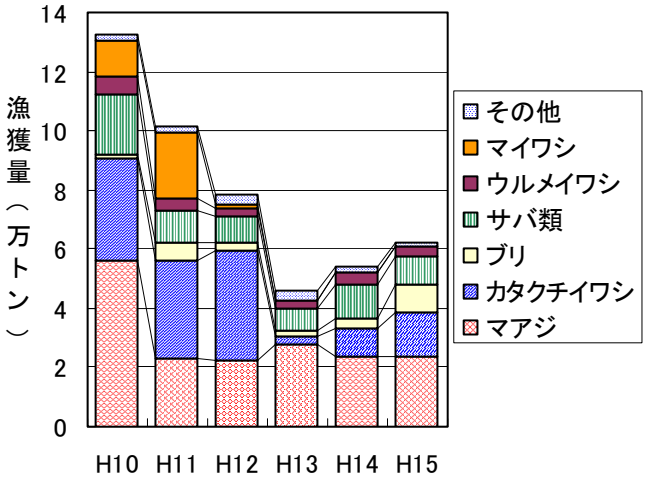


図５　中型まき網の魚種別漁獲量

5　定置網漁業の動向

図6に定置網漁業の魚種別漁獲量の動向を示しました。総漁獲量は平成 13、14 年と減少を続けていましたが、平成 15 年は前年を上回りました。魚種別ではブリ、マアジが増加し、ブリは前年の約 2.4 倍、マアジは約 1.4 倍の漁獲量となっています。その他、スルメイカ、ケンサキイカなどのイカ類も前年を上回りました。生産金額は平成 10 年以降毎年減少していましたが、平成 15 年は前年を上回り、約 14 億円となっています。

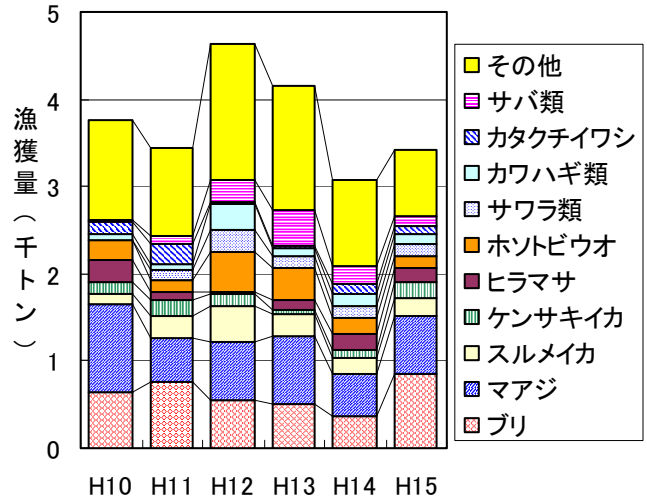
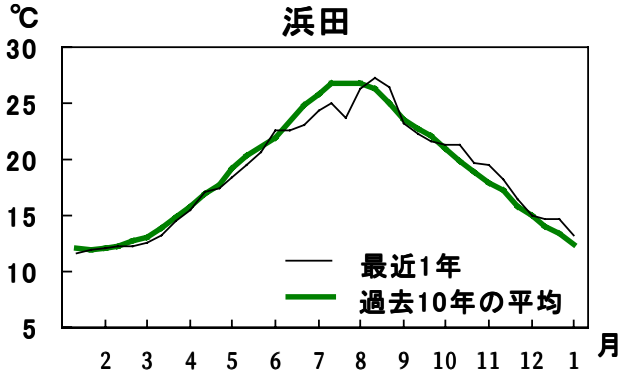


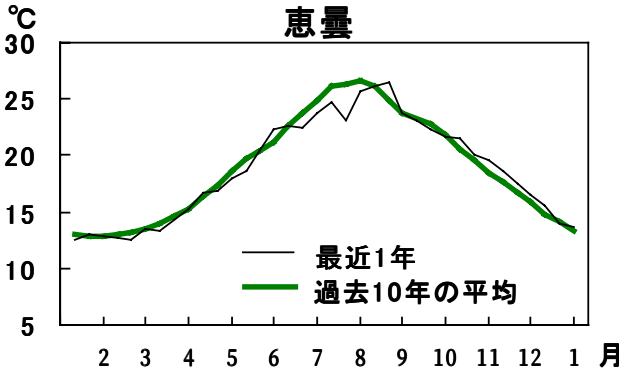
図６　定置網の魚種別漁獲量

《 2月の海況 》

2月	月平均	平年差	評　価
浜田	14.2℃	+1.0℃	やや高め
恵曇	14.5℃	+0.4℃	平年並み

2月の月平均水温は1月に比べ浜田で 2.4℃、恵曇では 3.1℃下降しました。浜田は「やや高め」、恵曇は「平年並み」となり、いずれも平年を上回っていました。





島根・鳥取県の各水産試験場が実施した海洋観測結果（1/28～1/30）によると、各層の水温は、表層（0m）が 10.8～14.7℃（平年差は－1.3～＋1.7℃）、中層（50m）が 10.3～14.3℃(平年差は－0.7～+1.6℃)、底層(100m)が 4.4～14.3℃(平年差は－4.7～＋3.8℃)となっていました。沿岸域では各層とも、水温が低かった昨年同月を1～2℃上回っていました。表層から中層までは、ほぼ同じ水温分布を示し、鳥取県沿岸海域では平年より高めとなっていました。底層では、昨年 12 月には見られなかった冷水域の張り出しが隠岐諸島北西約 65 マイルに見られ、冷水域中心付近では平年より低めとなりました。逆に島根県大田市～浜田市の沖合海域では、13℃前後の水塊に覆われ平年より高めとなりました。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「やや低め～はなはだ高め」、中層では「やや低め～やや高め」、底層では「かなり低め～かなり高め」となっています。

《　2月の漁況　》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ、サバ類主体に 268 トン、総水揚金額は 2,033 万円でした。1 統当りの漁獲量は 89 トンで、平年(過去 5 ヵ年平均)の 27%、前年の 21%と低調でした。水揚金額は 678 万円で、平年の 42%、前年の 26%でした。西郷では、マアジ、サバ類主体に総漁獲量 2,721 トン、総水揚金額は 1 億 490 万円でした。1 統当りの漁獲量は 639 トンで、平年の 71%、前年の 68%となりました。水揚金額は 1,748 万円で平年の 60%、前年の 79%となりました。浦郷ではマアジ、サバ類、ウルメイワシ主体で、総漁獲量 891 トン、総水揚金額は 5,098 万円でした。1 統当りの漁獲量は 223 トンで、平年の 69%、前年の 82%となりました。水揚金額は 1,275 万円で平年の 83%、前年の 82%となりました。浜田地区は極めて低調となりました。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船（5 トン以上）の漁獲量は、スルメイカ中心に 69.7 トンで、平年（過去 5 ヵ年平均）の 34%、前年の 41%となりました。日本海でのスルメイカ資源が比較的少なかったこと、秋～冬にかけての南下経路が韓国沿岸域に形成されたことなどにより、秋冬の島根県沿岸域でのスルメイカ漁は不振となっています。浜田に水揚げされたスルメイカは 20 入り主体となっています。

【沖合底びき網漁業】

浜田ではイボダイ、恵曇ではアカガレイ主体の水揚げとなっています。1 統当たり量・金額を見ると、浜田では漁獲量は前年を 8%下回りましたが、金額は前年並みとなっています。一方、恵曇では漁獲量は前年をわずかに上回りましたが、金額は 5%下回りました。浜田ではイボダイのほか、ケンサキイカ、マアジ、キダイがまとまって漁獲されましたが、この時期主体となるソウハチは低調に推移し、平年の 25%の水揚げに留まっています。

恵曇ではアカガレイが全体の75%を占めており、1統当り漁獲量を見ると、前年を12%、平年を67%上回り、好調に推移しました。またこの時期漁獲量が増加するソウハチは浜田同様低調に推移し、前年の43%に留まっています。

【小型底びき網漁業】

和江・大田市両漁協では、時化の影響により出漁日数が前年の7割程度に留まったため、低調に推移しました。1航海当たりの漁獲量は前年に比べ、和江では16%、大田市では7%下回りました。一方、金額は和江では前年を8%下回りましたが、大田市では6%上回りました。和江漁協ではソウハチを中心にヒレグロ、アンコウ、ニギスが、大田市漁協ではニギス、ソウハチ、ヒレグロがまとまって漁獲されています。一方、前年小型サイズ主体に好調に推移したハタハタは依然低調であり、殆ど漁獲されていません。

【定置網漁業】

県東部では漁獲量は前年および平年を下回りましたが、水揚金額は前年を上回り平年並みとなっています。隠岐では漁獲量は前年および平年を上回りましたが、水揚金額は前年並みで平年を下回っています。県東部ではスルメイカを主体にカタクチイワシ、ヤリイカなどが漁獲されています。ヤリイカは前年の約2倍の漁獲量となっています。隠岐でもスルメイカが主体で前年の約1.5倍の漁獲量で、漁獲量全体の約9割を占めています。その他ではヤリイカ、マアジなどが漁獲されています。県西部は定置網による漁獲はありませんでした。

【釣・縄】

県東部では漁獲量・水揚金額ともに前年を上回りましたが、平年を下回っています。県西部では漁獲量は前年および平年を上回りました。水揚金額は前年を下回りましたが、平年を上回っています。隠岐では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を下回りました。県東部ではヤリイカが主体で前年の約1.3倍の漁獲量があり、漁獲量全体の約6割を占めています。その他ではブリ、スルメイカなどが漁獲されています。県西部ではメダイが主体で前年の約3倍の漁獲量となっており、その他ではブリ、ヤリイカなどが漁獲されています。隠岐でもメダイが主体となっていますが、前年の6割程度の漁獲量となっています。

漁獲統計　　**平成16年2月1日 ～ 29日**

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	23	マアジ・サバ類	11.7トン	268トン
	西郷	46	マアジ・サバ類	63.0トン	2,721トン
	浦郷	24	マアジ・サバ類・ウルメイワシ	30.7トン	891トン
イカ釣り	浜田	87	スルメイカ	802Kg	69.7トン
(5トン以上)	西郷	―	―	― Kg	― トン
沖底	浜田	41	イボダイ	10.8トン	442トン
	恵曇	26	アカガレイ	5.9トン	154トン
小底	大田市	218	ニギス・ソウハチ	568Kg	124トン
	和江	314	ソウハチ	676Kg	212トン
定置網	浜田	―	―	― Kg	― トン
	美保関	106	スルメイカ、マアジ、カタクチイワシ	300.3Kg	31.8トン
	浦郷	108	スルメイカ、ヤリイカ、マアジ	995.3Kg	107.5トン
釣・縄	浜田	942	メダイ、ブリ、ヤリイカ	42.9Kg	42.9トン
	五十猛	241	メダイ、カサゴ・メバル類、ヤリイカ	30.2Kg	7.3トン

※　：1隻（統）1航海当漁獲量は総漁獲量÷延隻数・統数で算出しており、四捨五入した値です。
※※：西郷のイカ釣は漁協合併に伴うシステムの変更のためデータが集計できませんでした。